



# ぎふの 埋蔵文化財



7月 タイムスリップ探検隊に参加された皆さん(荒尾南遺跡)

## 特集

# 「広畑野口遺跡」

教育普及活動

タイムスリップ探検隊(荒尾南遺跡)  
出前授業など

考古学教室17

「縄文時代のヒスイ製玉について」

センター情報ボックス

現地説明会の報告及び今後の案内 展示の案内



広畑野口遺跡から出土した遺物

# センターの行う教育普及活動の報告

## 第18回 タイムスリップ探検隊

平成21年7月23日(木)  
大垣市:荒尾南遺跡

第18回目となる当センター主催の「タイムスリップ探検隊」を、今年は県下最大級の遺跡である荒尾南遺跡で実施しました。発掘体験や遺跡見学、土器片の洗い作業や拓本作業等、大昔にタイムスリップした1日でした。

### 発掘体験



「掘るのでなく、土を削る  
ようにするんだよ。」



「そうそう、上手に鎌を使えるね。」



「あ、何か出てきた!」

### 探検隊員体験 レポート 池田町 6年生 Aさん

- 発掘体験では、たくさんの土器が見つかった、中にはすごく大きいものも見つかったのでよかったです。発掘していくと何だか変な気持ちになってきました。それは、現代なのにだんだん弥生時代になっていったように感じたからです。弥生時代の人実際に使ったりさわったりした土器を、現代のぼくが2000年も前のその土器を土の中から発掘し、実際にさわることができ、すごくいい体験ができました。

### 遺跡見学



「本物はすごいな!」

### 洗い作業



「やさしくたたくようにすると、  
土が取れるよ。」

### 拓本作業



「模様がはっきり見えてきた。」

### 探検隊員体験 レポート 大垣市 保護者 Bさん

- 私はこの近所の生まれなので、自分のルーツを探るようで興味深かったです。発掘体験では、思ったよりたくさんの土器が出土し、その一つ一つが古代の人々が作り、生活に用いたものだと思ふと感慨深いものがありました。発掘作業、洗い作業、拓本作業、どれも根気のいる作業で私たちが博物館や資料集などで目にする遺物はこういった作業を地道にやっただけのおかげで形になっているのだと改めて思いました。

## 出前授業

毎年、文化財保護センターには「学校の児童・生徒に対して、埋蔵文化財を活用した歴史の授業をしてほしい」という要望があります。

今年度は岐阜県立不破高等学校から要望があり、6月24日に出前授業を行いました。不破高校では高校3年生の授業のなかで「地域を知ろう」というテーマに取り組んでいます。出前授業はそのテーマにそって、現在、発掘調査中で地元の遺跡の1つである荒尾南遺跡を紹介しました。荒尾南遺跡は弥生時代～古墳時代前期にかけて営まれた当時としては一大中心地となる遺跡です。今までに、船や人面を描いた土器が出土したことも知られています。生徒たちは教科書にはない遠い過去の地元の歴史に興味をもつことができたようです。

### ● 生徒の感想

- かなりの期間を使い、けっこうな広さを調査してびっくりした。見たこともないような土器や土器の文様を見て、昔の人はすごいことをしていたんだと思った。他にも傘の一部や家の柱なども遺跡のなかに残っていることも分かった。僕はあまり遺跡には興味がなかったけど、この話を聞いて少しは興味を持てるようになった。弥生時代の生活について多少分かることができた。また、米を作っていると思っていたけど、その他に交易をよくしていたこともわかってすごいと思った。



＜遺跡の説明を聞く生徒＞



＜土器の特徴を観察する生徒＞

## 職場体験・遺跡見学

今年も多くの児童・生徒・学校の先生や一般の方々、文化財保護センターや飛騨駐在事務所、各遺跡発掘現場を訪れ、職場体験や遺跡見学、発掘体験などを行いました。

### ● 職場体験(石器の実測作業)をした中学生の感想

- 実測作業では石器を図化していく仕事を体験しました。それはすごく細かい仕事で難しかったです。どうやって描いたらいいのかわからずいたとき、優しく教えていただけコツをつかむことができました。石のごつごつした様子や、つるつるところを表現しなくてはだめで、根気と観察力があるなあと思いました。
- こうした細かな仕事を毎日やっている文化財保護センターの作業員さん達はすごいなあと思いました。



大垣市教員研修会「ふるさと講座」

8月24日(月)に、大垣市西部研修センターと荒尾南遺跡で、大垣市教員研修会「ふるさと講座」が行われ、文化財保護センターから講師を派遣しました。講座内容は、荒尾南遺跡の紹介と体験発掘・発掘現場めぐりです。33名と多数の参加者があり、実体験を交えた有意義な研修となりました。

### ● <参加者の感想>

- 地域にとっても貴重な遺跡があることがわかり、その発掘の事実を目にして、ふるさとを再発見することができてよかった。
- 岐阜県下最大級の遺跡で、出土品を実際に見ることができ、実際に発掘を体験できてよかった。これからの授業で、遺跡や出土品を使って歴史学習を仕組むことができそうな気持ちになった。

## 学校への展示

今年度から、発掘現場の地元の学校への遺物展示を始めました。これまでに大垣市内の小学校への展示を行いました。展示をした直後に、子どもたちはケースの中の遺物を見て、いろいろな感想を友だちと話し合っていました。



大垣市立静里小学校の様子



大垣市立宇留生小学校の様子

# 古代の役所跡 広畑野口遺跡

広畑野口遺跡は各務原市蘇原青雲町にあり、岐阜鵜沼線道路整備事業に伴って平成19・20年度に発掘調査が行われました。奈良時代の掘立柱建物跡8棟、柵跡3列、7世紀後葉から8世紀初頭の多量の須恵器が捨てられた土坑群が見つかりました。掘立柱建物跡の配置は、真北方向とこれに直角となる方向に長い建物で構成されています。また、これらの建物の配置されている内側には建物のない空間があり、外側には建物を囲む柵跡があるという規則的な配列になっています。これらの建物跡周辺からは、役人の必需品である硯(円面硯・転用硯)、「美濃」国刻印須恵器、屋根形の須恵器、暗文の入った土師器、製塩土器などの遺物が出土しています。これらは一般の集落からあまり出土していないものであることから、掘立柱建物跡群は古代の役所跡である可能性が高いといえます。

この遺跡は台地上に立地しています。この台地には古墳や古代の寺院跡、中世の屋敷跡があります。また周辺の丘陵には須恵器や瓦の窯跡があり、役所との関係も考えられます。

掘立柱建物跡の周辺から出土している遺物は、7世紀後葉から8世紀初頭のものが多くみられますが、5世紀前葉から6世紀にかけての須恵器も多く出土しています。このことから役所が作られる以前は、近くに豪族居館のような生活拠点があり、その後この地に役所が作られたのではないかと考えられます。

## 遺物について

### 硯

7世紀後葉から8世紀初頭の硯が出土しています。硯面が円形の円面硯の他にも須恵器の蓋などを利用した転用硯がたくさん出土しました。転用硯は蓋の内面で墨をするので、蓋の内側に墨が付いていたり、つるつるになっていたりします。

### 「美濃」国刻印須恵器

8世紀前葉の須恵器無台坏の内面に「美濃」と国名印が押されたものが1点出土しています。この印は焼成前に押されたもので、「美濃」と刻印されるものと「美濃国」と刻印されるものがあります。この印が押された須恵器は岐阜市芥見の老洞古窯でのみ焼成が行われたものです。

全国の消費地遺跡では1999年の時点で、79点出土しており、そのうちの49点が岐阜県美濃地域で出土しています。各務原市では三井遺跡で9点、野口廃寺で1点確認されています。

この印のある須恵器は寺院跡や役所的施設と考えられる遺跡や、地域の拠点集落跡から出土する傾向があります。

### 屋根の形をした須恵器

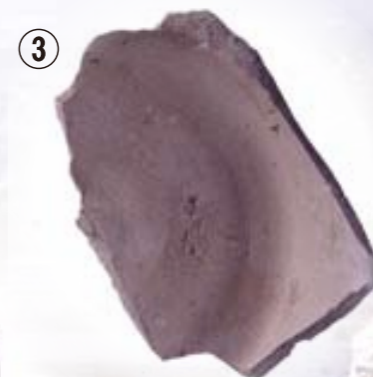
ミニチュア建物の屋根の部分が出土しました。おそらく祭祀に伴う遺物と考えられます。最終的には転用硯として利用したようで、内側には墨が付いています。



円面硯



屋根形須恵器



「美濃」国刻印須恵器



掘立柱建物跡の柱穴



土坑から出土した須恵器

- ・番号は遺物が出土した場所です
- ・ラインは掘立柱建物跡です。
- ・点線は土坑です。



3.4.5号掘立柱建物跡



### ■ ヒスイとは ■

ヒスイは、漢字で「翡翠」と書きます。翡翠という名前の由来は、美しい羽根の色をもつ小鳥である翡翠(カワセミ)と考えられ、由来のとおり、淡い緑色の美しい宝石です。また、この宝石は美しい色以外に他の石と比べ、しっとりとした質感で、重くて硬いという魅力的な特徴も合わせもちます。産出地は少なく、新潟県姫川・青海川流域のものが質・量とも圧倒します。その他に、鳥取県若桜、兵庫県大屋町、岡山県大佐町、長崎県長崎市、北海道旭川市などが産地として知られています。このヒスイは稀少な石ですが、すでに縄文時代から装身具の材料として使われ、遺跡の発掘調査をすると稀に発見されることがあります。今回の考古学教室は、ヒスイで作られた縄文時代の玉について紹介します。

### ■ ヒスイの加工 ■

ヒスイを加工する縄文時代の遺跡は新潟県姫川・青海川流域で発見されています。発掘調査では、ヒスイの原石・未成品・成品の他に、ヒスイを製作する途中で生じた剥片や使用された敲石・砥石が出土しています。こうしたものを整理すると、ヒスイ玉を製作する工程を想定することができます。

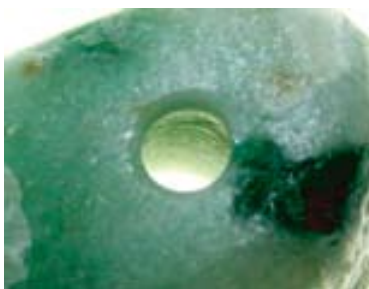
まずは、成形作業です。川原から採った石を荒く割り全体の形を整えます。次にコツコツと石で敲いて全体に丸みをもたせます。仕上げは砥石で磨いてきれいに形を整えます。

成形作業が終わると、いよいよ孔をあける作業に入ります。孔をあける技術は、孔をあけて紐をとおして飾玉にする大事な作業ですが、ヒスイという非常

に硬い石の表面に真っ直ぐの孔をあけることは、とても難しい技術です。各地の研究者がヒスイに孔をあける実験をしていますが、実験結果から、竹や石などを錐として先端を濡らし、錐とヒスイとの間に硬い砂を入れながら孔をあけたと推定されています。ヒスイに孔をあける道具の形状は、円い管状か棒状のタイプの穿孔具を用いたものと先端がとがるタイプの穿孔具を用いたものがあるようです。穿孔後は、貫通した側の孔の縁を円滑に調整します。

### ■ 岐阜県内の縄文時代のヒスイ玉 ■

ヒスイは、限られた地域に産出します。また、ヒスイを玉にするために孔をあける必要があり、それには様々な道具の他に知識が必要となります。このため岐阜県内の遺跡で出土するヒスイ玉の多くは、ヒスイの産地に近い新潟県の西部や富山県東部の地域で採取、加工されたものと考えられます。一方で、近年、原産地から100キロ離れた長野県湊の内遺跡でヒスイ原石、剥片などがまとまって出土し、小規模ながら原産地を離れた場所で製作された可能性が指摘されています。岐阜県内の遺跡でも、道具や工房は発見されていないものの、高山市森下遺跡で多くのヒスイ製の玉類のほかにも未製品もみつかることから、製作した可能性が高いといえます。飛騨地方北部は原産地から100キロ以内に位置することから今後、ヒスイ玉類を製作した遺跡が発見されるかもしれません。



孔の縁を円滑に調整した玉  
(高山市荒城神社遺跡出土)



円い管か棒状の錐で  
穴をあけた玉  
(恵那市大平遺跡出土)



岐阜県内の縄文時代ヒスイ製玉類の出土遺跡分布

## 現地説明会の報告

### ■ 下切遺跡

(下呂市金山町中切) 7月4日(土)

当日は天候にも恵まれ、地元下呂市内を中心に125名の参観者があり発掘調査の成果に触れていただきました。発掘調査現場では、江戸時代の井戸跡や鍛冶遺構を熱心に参観される姿がありました。遺物展示会場では、鍛冶作業に用いた送風管である鞆の羽口や瀬戸や美濃地方で作られた江戸時代の陶磁器を間近で見られ、感嘆の声をあげられる姿がありました。「地元でこんなすごい遺跡があるなんて誇りに思います。」という参観者の一言は、発掘調査を担当した調査職員として大変嬉しく思いました。



下切遺跡現地説明会(井戸跡を見学する参加者)

### ■ 岩田西遺跡・岩田東A遺跡

(岐阜市岩田西) 10月3日(土)

当日は天候の心配も杞憂に終わり、気持ちの良い天候の中で、地元岐阜市を中心に県外からの参加者も含め242名のみなさんが、発掘調査の成果に触れてくださいました。発掘調査現場では、調査員に方形周溝墓の築造年代を質問されたり、畦畔の見つけ方を質問されたりするなど熱心に見学される方がたくさんみえました。また、遺物展示会場では、実際に土器を手にとり、興味深く観察されるなど、まさに、「見て、触って、感じて」頂けた現地説明会となりました。



岩田西現地説明会

## 現地説明会の案内

### ■ 荒尾南遺跡(大垣市荒尾町)

11月14日(土) 午後1時30分~(予定)

今年度も大垣市荒尾町で遺跡の発掘調査を行っています。過去3年間の成果を含め今年度の調査状況についての説明会を開催しますので、多数のご来跡をお待ちしています。



(昨年度の現地説明会の様子)

## 発掘調査報告会

### ■ 平成21年度岐阜県発掘調査報告会 7月11日(土)

毎年7月には、県民の皆様へ埋蔵文化財に対する理解を深めていただくために、県内の発掘調査の報告会を行っています。今年度は「関市文化会館」で開催し、昨年度までに発掘調査を実施した県内4ヶ所の報告が行われました。当日は、県内外から152名の参加者があり、熱心に報告を聞いて質問をする姿や展示遺物を熱心に見られる姿がありました。

- 事例報告1  
各務原市 山田寺跡(各務原市教育委員会)
- 事例報告2  
各務原市 広畑野口遺跡(当センター)
- 事例報告3  
高山市 ウバガ平遺跡(当センター)
- 事例報告4  
関市 池尻大塚古墳(関市教育委員会)



調査結果の報告



遺物展示を見る参観者

## 展示会の案内

### ■ 地中からのメッセージ~「第30回全国豊かな海づくり大会」に向けて~ 展示

・当センターの発掘調査によって出土した遺物から、「水との共生」「海・川・山のつながり」「縄文時代・海からの贈物」のテーマで展示を実施しています。

	H21.10/8 ~11月	H21.12月 ~H22.1月	H22.2月 ~3月
可茂総合庁舎 (美濃加茂市古井町下古井大庭)	水との共生	海・川・山の つながり	縄文時代・ 海からの贈物
東濃西部総合庁舎 (多治見市上野町)	海・川・山の つながり	縄文時代・ 海からの贈物	水との共生
岐阜県世界淡水魚水族館 アクア・トビ (各務原市川島笠田町)	縄文時代・ 海からの贈物	水との共生	海・川・山の つながり



▲東濃西部総合庁舎展示の様子

### ■ 「発掘された岐阜県の遺跡 有坂薬師堂展」開催中

・県民ふれあい会館「生涯学習コーナー」(岐阜市)  
11月30日まで



▲県民ふれあい会館展示の様子

### ■ 「平成21年度発掘速報展 ~ひだ発掘最前線~」開催中

・当センターが近年実施しました発掘調査の成果のうち飛騨地区の3遺跡(ウバガ平遺跡・野内遺跡・三枝城跡)から選んだ約250点の出土遺物を展示します。  
・風土記の丘学習センター(高山市)11月8日まで



▲風土記の丘学習センター展示の様子

## 平成21年度の事業の進捗状況(10月現在)

遺跡名	発掘整理	事業名(事業者)	備考
荒尾南遺跡(大垣市)	発掘整理	平成21年度東海環状自動車道(養老JCT~大垣西IC)に伴う埋蔵文化財発掘調査(国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所)	11/14(土) 現地説明会(予定) 発掘・整理作業中
岩田西・岩田東A遺跡・中屋敷遺跡(岐阜市)	発掘整理	平成21年度国道156号岐阜東バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査(国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所)	10/3(土) 現地説明会実施 発掘・整理作業中
東町3・4号古窯跡(多治見市)	発掘整理	平成21年度公共住宅市街地基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(県土整備部多治見土木事務所)	10/29(木) 作業開始(予定)
広畑野口遺跡(各務原市)	整理	平成21年度公共緊急地方道路整備事業(都)岐阜鶴沼線に伴う埋蔵文化財発掘調査(都市建設部 岐阜土木事務所)	整理作業中
野内遺跡C地区 三枝城跡(高山市)	整理	平成21年度中部縦貫自動車道、高山国府BP及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(国土交通省中部地方整備局高山国道事務所)	整理作業中
下切遺跡(下呂市)	発掘整理		7/4(土) 現地説明会実施 整理作業中

## あしがき

正倉院に残る日本最古(大宝二年、702年)の戸籍の中に御野(美濃)国山県郡三井田里(みいたり)の記録が残っています。この三井田里は現在の当センターが本部を置く岐阜市三田洞をふくむ地域とされています。〔古代の美濃〕野村忠夫1980〕  
岐阜県文化財保護センターは、この4月から県の教育機関となり新たなスタートを切ることとなりました。平成3年度に旧穂積町牛牧の地でスタートし、岐阜市司町の総合庁舎を経て現在に至り、今年度で19年目を迎えています。この間に数多くの遺跡を調査記録し、これまでに111冊の報告書を刊行してきました。この間多くの職員が入れ替わり携わりましたが、「埋蔵文化財の記録を後世に残す」という想いは同じでした。そんな中、センター発足当初から刊行されてきたのがこの「きずな」です。この「きずな」は、センターの事業活動をご理解、ご支援いただくとともに、センターと皆さんをつなぐ絆、過去と未来をつなぐ絆、そして地域の人と人をつなぐ絆となることを願って発行してきたものです。今後とも、埋蔵文化財等の保護思想やふるさとの歴史を大切にすることを願ってやみません。

### ●岐阜県文化財保護センター●

〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1  
TEL.058-237-8550(代) FAX.058-237-8551

### ●飛騨駐在所●

〒509-4122 高山市国府町名張字峠1425-1  
TEL.0577-72-4784(代) FAX.0577-72-4690

ホームページ : <http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/maibun/>  
e-mail : [c27221@pref.gifu.lg.jp](mailto:c27221@pref.gifu.lg.jp)